

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10510	明治26年	夏の部	夕立のわするものらし松の月	夕立	天文
33	明治27年	夏の部	宿とりて衣更へたる夕かな	更衣	人事
34	明治27年	夏の部	職人の衣更へたる一坐かな	更衣	人事
35	明治27年	夏の部	菩提寺の僧と語るや衣更	更衣	人事
36	明治27年	夏の部	ほろ / \ と雉啼く野辺の麦熟せり	麥	植物
37	明治27年	夏の部	日入らんとして麦刈る野辺に人むれたり	麦刈	人事
38	明治27年	夏の部	刈麦の庄屋が軒の匂ひかな	麦刈	人事
39	明治27年	夏の部	卯の花の鎧の袖にこぼれける	卯の花	植物
40	明治27年	夏の部	卯の花の爰は都のはづれなり	卯の花	植物
41	明治27年	夏の部	夕月の卯の花垣根馬士帰る	卯の花	植物
42	明治27年	夏の部	一輪で咲く大寺の牡丹かな	牡丹	植物
43	明治27年	夏の部	杜若咲くや汀の石黒し	杜若	植物
44	明治27年	夏の部	廣縁に姫居並べり杜若	杜若	植物
45	明治27年	夏の部	杜若池一面に咲きにけり	杜若	植物
46	明治27年	夏の部	杜若誰殿の住みあらしけむ	杜若	植物
47	明治27年	夏の部	杜若庄屋が池の夜明かな	杜若	植物
48	明治27年	夏の部	夕月の白芥子の花ほろ / \ と	罌粟の花	植物
49	明治27年	夏の部	面白や芥子散る里の夕月夜	罌粟の花	植物
50	明治27年	夏の部	白芥子に赤前垂の女かな	罌粟の花	植物
51	明治27年	夏の部	わが宿の白芥子の花咲きにけり	罌粟の花	植物
52	明治27年	夏の部	名も知らぬ鳥の啼きけり夏木立	夏木立	植物
53	明治27年	夏の部	風をり / \ 灯火青き若葉かな	若葉	植物
54	明治27年	夏の部	夕雨の夏山の裾牛帰る	夏山	地理
55	明治27年	夏の部	ものゝふの歌よまんとす子規	時鳥	動物
56	明治27年	夏の部	大佛の肩のあたりを子規	時鳥	動物
57	明治27年	夏の部	子規石の華表に苔むしぬ	時鳥	動物
58	明治27年	夏の部	子規つら / \ 高き梢かな	時鳥	動物
59	明治27年	夏の部	神体の何とも知れず子規	時鳥	動物
60	明治27年	夏の部	宮柱太しき立てほとゝきす	時鳥	動物
61	明治27年	夏の部	大川の舟箭の如し子規	時鳥	動物
62	明治27年	夏の部	子規某侯の登城かな	時鳥	動物
63	明治27年	夏の部	行列の跡や先なり子規	時鳥	動物
64	明治27年	夏の部	子規御意むづかしの大名や	時鳥	動物
65	明治27年	夏の部	子規名古曾は古き関所なり	時鳥	動物
66	明治27年	夏の部	子規箱根峠の夜明かな	時鳥	動物
67	明治27年	夏の部	あけぼのゝ船頭ひとり子規	時鳥	動物
68	明治27年	夏の部	直垂の人立ちにけり子規	時鳥	動物
69	明治27年	夏の部	子規五條の橋の夜明かな	時鳥	動物
70	明治27年	夏の部	子規啼くや古墳月黒し	時鳥	動物
71	明治27年	夏の部	一峯江に落ちて青し子規	時鳥	動物
72	明治27年	夏の部	子規なくや断岸三千丈	時鳥	動物
73	明治27年	夏の部	大木の道に仆れつひきかへる	墓	動物
74	明治27年	夏の部	草屋二軒中より出る墓	墓	動物
75	明治27年	夏の部	蚊遣火や親老いて子は幼し	蚊遣	人事
76	明治27年	夏の部	旅僧の軒にゑむかやりかな	蚊遣	人事
77	明治27年	夏の部	一峯高し蚊遣の里の家五六	蚊遣	人事
78	明治27年	夏の部	山々の裾はかやりの烟かな	蚊遣	人事
79	明治27年	夏の部	つく / \ と富士見る人や五月晴	五月晴	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
80	明治27年	夏の部	五月雨や濁浪一渦三千里	五月雨	天文
81	明治27年	夏の部	五月雨の函根を越えて宿りけり	五月雨	天文
82	明治27年	夏の部	五月雨の店頭の丁稚眠りける	五月雨	天文
83	明治27年	夏の部	五月雨や翁端然として大閤記	五月雨	天文
84	明治27年	夏の部	五月雨の江戸は八百八町なり	五月雨	天文
85	明治27年	夏の部	五月雨の馬ほく / \ と東海道	五月雨	天文
86	明治27年	夏の部	葉がくれのいちご見えたる夕日かな	苺	植物
87	明治27年	夏の部	寺子らが机の上のいちごかな	苺	植物
88	明治27年	夏の部	女の子雛人形のいちごかな	苺	植物
89	明治27年	夏の部	里の子のいちごわけいり小藪道	苺	植物
90	明治27年	夏の部	乳母が手の無下に卑きいちごかな	苺	植物
91	明治27年	夏の部	蝸牛や竹縁三尺経机	蝸牛	動物
92	明治27年	夏の部	かたつむり公達のむつからせ給ふ	蝸牛	動物
93	明治27年	夏の部	蝸牛林中に入て雨晴れぬ	蝸牛	動物
94	明治27年	夏の部	蝸牛行脚の僧未だ帰らず	蝸牛	動物
95	明治27年	夏の部	翡翠の一ツ止まって小雨ふる	翡翠	動物
96	明治27年	夏の部	かはせみの飛去て池暮れんとす	翡翠	動物
97	明治27年	夏の部	百合咲くや旅僧ひとり地藏堂	百合	植物
98	明治27年	夏の部	古塚の白百合の花咲きにけり	百合	植物
99	明治27年	夏の部	百合の花山門をくぐる女かな	百合	植物
100	明治27年	夏の部	里の子の百合の花さす地藏かな	百合	植物
101	明治27年	夏の部	禿山を見上ぐる牛の暑さかな	暑さ	時候
102	明治27年	夏の部	炎天の村は鎮守の祭かな	炎天	天文
103	明治27年	夏の部	炎天の川原に人の声すなり	炎天	天文
104	明治27年	夏の部	炎天や十里の沙路人見えず	炎天	天文
105	明治27年	夏の部	炎天の漁人群がる川瀬かな	炎天	天文
106	明治27年	夏の部	炎天を只銅像の高きかな	炎天	天文
107	明治27年	夏の部	炎天の大杉ところ / \ かな	炎天	天文
108	明治27年	夏の部	炎天や廣野の中の石地藏	炎天	天文
109	明治27年	夏の部	炎天の牛引出すや村外れ	炎天	天文
110	明治27年	夏の部	炎天の大路直なる都かな	炎天	天文
111	明治27年	夏の部	炎天に立並びけり大佛	炎天	天文
112	明治27年	夏の部	炎天の川原に眠る舟子かな	炎天	天文
113	明治27年	夏の部	炎天の峠越えたるひとりかな	炎天	天文
114	明治27年	夏の部	炎天の峠を上る驛馬かな	炎天	天文
115	明治27年	夏の部	炎天を船千艘の港かな	炎天	天文
116	明治27年	夏の部	炎天を長屋 / \ の軒かな	炎天	天文
117	明治27年	夏の部	炎天の乞食ひとり眠りけり	炎天	天文
118	明治27年	夏の部	炎天の瘦牛ところ / \ かな	炎天	天文
119	明治27年	夏の部	炎天の畑中を通る男かな	炎天	天文
120	明治27年	夏の部	炎天を順礼越ゆる峠かな	炎天	天文
121	明治27年	夏の部	涼しさや竹揺れて海見えにけり	涼し	時候
122	明治27年	夏の部	百萬の灯火涼し江戸の町	涼し	時候
123	明治27年	夏の部	涼しさや磯馴松かげところ / \	涼し	時候
124	明治27年	夏の部	涼しさや大海原を月一輪	涼し	時候
125	明治27年	夏の部	涼しさや東は海波三萬里	涼し	時候
126	明治27年	夏の部	涼しさや水橋上を越えんとす	涼し	時候
127	明治27年	夏の部	涼しさや浪とう / \ と海士が軒	涼し	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
128	明治27年	夏の部	涼しさや燈火見ゆる向川岸	涼し	時候
129	明治27年	夏の部	涼しさや夕立ながら松の月	涼し	時候
130	明治27年	夏の部	清水とく / \ 晝とぞしたる小村かな	清水	地理
131	明治27年	夏の部	武者一騎岩踏みならず清水かな	清水	地理
132	明治27年	夏の部	清水湧く小村の軒の草長し	清水	地理
133	明治27年	夏の部	夕顔や職人かへる薄月夜	夕顔	植物
134	明治27年	夏の部	撫子や晝静かにして鶏うたふ	撫子	植物
135	明治27年	夏の部	岨道の撫子やせて覚束な	撫子	植物
309	明治28年	夏の部	丹壘白壘若葉の中の五層樓	若葉	植物
310	明治28年	夏の部	打開く大手の門の青あらし	青嵐	天文
311	明治28年	夏の部	玉欄干釵光扇影青あらし	青嵐	天文
312	明治28年	夏の部	青嵐吹き入る海の朝日かな	青嵐	天文
313	明治28年	夏の部	大川の渦き青く螢とぶ	螢	動物
314	明治28年	夏の部	僧入定ほたる三ツ四ツ低くとぶ	螢	動物
315	明治28年	夏の部	前栽のほたる三ツ四ツ小雨ふる	螢	動物
317	明治28年	夏の部	時鳥況んや我は夢みらく	時鳥	動物
318	明治28年	夏の部	人見えず只海山のさみだるゝ	五月雨	天文
320	明治28年	夏の部	梅雨晴のそこと定めよ須磨明石	梅雨晴	天文
321	明治28年	夏の部	柳暗く水白く水鶏なく夜かな	水鶏	動物
322	明治28年	夏の部	灯幽かに鶉飼が妻のひとり居る	鶉飼	人事
323	明治28年	夏の部	岨道や丈三尺の蛇の衣	蛇衣を脱ぐ	動物
324	明治28年	夏の部	五月雨の大佛仰ぐひとりかな	五月雨	天文
325	明治28年	夏の部	無二無三に角振立てよ蝸牛	蝸牛	動物
326	明治28年	夏の部	夕立の跡に連る白帆かな	夕立	天文
327	明治28年	夏の部	夕立の雲吹きつけぬ天主閣	夕立	天文
329	明治28年	夏の部	夕立の板東太郎六十里	夕立	天文
330	明治28年	夏の部	姫百合の覚束なげや草の中	百合	植物
331	明治28年	夏の部	今年竹瀝車の烟のすさまじや	若竹	植物
332	明治28年	夏の部	雲の峯満洲の野に崩れんとす	雲の峰	天文
333	明治28年	夏の部	雲の峯奥州五十四郡なり	雲の峰	天文
334	明治28年	夏の部	夏ころも奥の山越え出羽の海	夏衣	人事
335	明治28年	夏の部	某も貴殿も今日の暑さ哉	暑さ	時候
336	明治28年	夏の部	ゆき / \ て五十四郡の清水のまん	清水	地理
337	明治28年	夏の部	蟬なくや右は奥州左出羽	蟬	動物
338	明治28年	夏の部	野も畑もさみだれにけり牛の声	五月雨	天文
339	明治28年	夏の部	夕立やすわむら / \ と比叡の雲	夕立	天文
340	明治28年	夏の部	英雄孺子さても其後あつさかな	暑さ	時候
488	明治29年	夏の部	一山の堂塔古き若葉かな	若葉	植物
489	明治29年	夏の部	夜ほの / \ 湖の上の若葉かな	若葉	植物
490	明治29年	夏の部	さん候あれこそ田植唄にて候え	田植	人事
491	明治29年	夏の部	もの申す聞召したか子規	時鳥	動物
492	明治29年	夏の部	あな笑止山僧未だ衣を更へず	更衣	人事
493	明治29年	夏の部	衣更へて和尚来ませり此夕	更衣	人事
494	明治29年	夏の部	吾妹子が衣更へたるはづかしさ	更衣	人事
495	明治29年	夏の部	子規太郎冠者居るかやい	時鳥	動物
496	明治29年	夏の部	居は膝を容るゝに足れば青嵐	青嵐	天文
497	明治29年	夏の部	里見えて時に閑古鳥がなく	閑古鳥	動物
498	明治29年	夏の部	暁や湖上をはしる青嵐	青嵐	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
499	明治29年	夏の部	一ツ / \ いちご取出す袂かな	苺	植物
500	明治29年	夏の部	口紅の痕すさまじき暑かな	暑さ	時候
502	明治29年	夏の部	そもさんと骸骨抱く涼しさよ	涼し	時候
503	明治29年	夏の部	灯ともすは妹があたりか五月闇	五月闇	天文
505	明治29年	夏の部	五月雨の合羽今簑わらじ	五月雨	天文
506	明治29年	夏の部	城上の雲突抜かんず大幟	幟	人事
507	明治29年	夏の部	姫百合鬼百合姫百合を取る	百合	植物
508	明治29年	夏の部	引く弓の満月の如しほとゝぎす	時鳥	動物
510	明治29年	夏の部	子は瘦せぬ其子の母は此夏を	夏	時候
511	明治29年	夏の部	灯涼しや白装束の巫女ひとり	涼し	時候
512	明治29年	夏の部	涼しさや水樓下る白柏子	涼し	時候
10613	明治29年	夏の部	何とせん只天地のさみだるゝ	五月雨	天文
1091	明治30年	夏の部	更へもあへず衣典するいさゝか惜し	更衣	人事
1092	明治30年	夏の部	綿ぬいで袷と申す送られつ	袷	人事
1093	明治30年	夏の部	師翁より袷と申越されける	袷	人事
1095	明治30年	夏の部	衣更へてかたみに笑めるめをとかな	更衣	人事
1097	明治30年	夏の部	急がずば松魚に後れ申すべく	鯉	動物
1099	明治30年	夏の部	心せよ毛虫の多きところあり	毛蟲	動物
1100	明治30年	夏の部	首盗むべく獄門に忍びつ子規	時鳥	動物
1101	明治30年	夏の部	頭つけば毛虫忽ちわたかまる	毛蟲	動物
1102	明治30年	夏の部	焼跡や幟もなく日暮るゝ	幟	人事
1103	明治30年	夏の部	廬を出でず三句にして梅黄ばむ	梅の實	植物
1104	明治30年	夏の部	式部の君祭に見えず恨めしき	祭	人事
1105	明治30年	夏の部	一輪の牡丹切つたる月夜かな	牡丹	植物
1106	明治30年	夏の部	小さき家に白き牡丹ばかりなる	牡丹	植物
1107	明治30年	夏の部	唐代の衣冠正しき牡丹かな	牡丹	植物
1108	明治30年	夏の部	曉に主人牡丹を切りに出づ	牡丹	植物
1109	明治30年	夏の部	悉く牡丹を切て日暮れたり	牡丹	植物
1110	明治30年	夏の部	庵に臥して実となりし櫻眺め得つ	櫻の實	植物
1111	明治30年	夏の部	短夜の戀てふ歌をよみ侍る	短夜	時候
1112	明治30年	夏の部	短夜を傾城町のさわがしき	短夜	時候
1113	明治30年	夏の部	短夜を主上還御とひしめきぬ	短夜	時候
1114	明治30年	夏の部	短夜のともしつらなる港町	短夜	時候
1115	明治30年	夏の部	明易き沖の小嶋のかゝり舟	短夜	時候
1116	明治30年	夏の部	東向の磯家のともし明易き	短夜	時候
1117	明治30年	夏の部	隠者を訪へど逢はずして閑古鳥	閑古鳥	動物
1118	明治30年	夏の部	あはれ六朝の文物閑古鳥	閑古鳥	動物
1119	明治30年	夏の部	池涸れて杜若咲く埒もなし	杜若	植物
1120	明治30年	夏の部	鞭打つや卯の花こぼす執金吾	卯の花	植物
1121	明治30年	夏の部	船に寐て千里江陵青あらし	青嵐	天文
1122	明治30年	夏の部	二三本若楓あらぬ寺もなし	若楓	植物
1123	明治30年	夏の部	古道を枝さしかはす若葉かな	若葉	植物
1124	明治30年	夏の部	大澤の坡に仰ぐ青葉哉	青葉	植物
1125	明治30年	夏の部	遮るを臍でわけゆく若葉かな	若葉	植物
1126	明治30年	夏の部	はらり / \ 若葉の露に首をちぢめつ	若葉	植物
1127	明治30年	夏の部	枝垂れて若葉したるを踏みつ / \	若葉	植物
1128	明治30年	夏の部	千葉か三浦か若葉の中の旗印	若葉	植物
1129	明治30年	夏の部	若葉午にして敵営烟起るを見る	若葉	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1130	明治30年	夏の部	大砲の烟罩めつくす若葉かな	若葉	植物
1131	明治30年	夏の部	烟すこし若葉の中の砲の音	若葉	植物
1132	明治30年	夏の部	一彪の軍馬出でたり夏木立	夏木立	植物
1133	明治30年	夏の部	夜大雨す筍地を抜くこと三寸	筍	植物
1134	明治30年	夏の部	筍の最も大なるをほる	筍	植物
1135	明治30年	夏の部	筍の分野に魏あり呉蜀あり	筍	植物
1136	明治30年	夏の部	筍の斜につちくれをさくもあり	筍	植物
1137	明治30年	夏の部	夏の月を泳いで前岸に達しける	夏の月	天文
1138	明治30年	夏の部	二三十紅灯吊す納涼かな	納涼	人事
1140	明治30年	夏の部	清水あり馬をはせたる六十里	清水	地理
1141	明治30年	夏の部	昨日見してゝむしの行方を知らず	蝸牛	動物
1142	明治30年	夏の部	此日巳の刻てゝむし出づと記されし	蝸牛	動物
1143	明治30年	夏の部	てゝむしを秦王に献じ説きけらく	蝸牛	動物
1144	明治30年	夏の部	客と莊子とてゝむしを見てみたりける	蝸牛	動物
1145	明治30年	夏の部	てゝむしや蘇秦六国の相となる	蝸牛	動物
1146	明治30年	夏の部	傘張りの傘干せば柿の花散りぬ	柿の花	植物
1147	明治30年	夏の部	貪りてなるべく僧は帰らず椎の花	椎の花	植物
1148	明治30年	夏の部	夕日赤み雨晴れつ芥子花咲出でつ	罌粟の花	植物
1149	明治30年	夏の部	魯に大に諸侯を會す瓜茄子	雑	雑
1150	明治30年	夏の部	麦の秋蘇秦茫然として帰る	麦の秋	時候
1151	明治30年	夏の部	死なばやと翁うめきつ麦の秋	麦の秋	時候
1152	明治30年	夏の部	高時が犬をはしらす麦の秋	麦の秋	時候
1153	明治30年	夏の部	浪花なる娘下りつ麦の秋	麦の秋	時候
1154	明治30年	夏の部	よき女貧家に嫁して粽結ふ	粽	人事
1155	明治30年	夏の部	女の童の巧みに粽ゆふがあり	粽	人事
1156	明治30年	夏の部	恨むらくは妹が粽のちいさくて	粽	人事
1157	明治30年	夏の部	落人にひそかに粽まゐらせぬ	粽	人事
1158	明治30年	夏の部	妻鮓を韓非説難を作りける	鮓	人事
1159	明治30年	夏の部	すしを得つ詩人一堂に會したる	鮓	人事
1160	明治30年	夏の部	探題して公すしてふを得給ひし	鮓	人事
1161	明治30年	夏の部	七八人城中の鮓に義を結ぶ	鮓	人事
1162	明治30年	夏の部	二三子が頻りに鮓を望みける	鮓	人事
1163	明治30年	夏の部	ひとり住ですしを壓す賢なればなり	鮓	人事
1164	明治30年	夏の部	村熟にすしを壓す因て詩を講ず	鮓	人事
1165	明治30年	夏の部	此鮓を娘孕みたる恨かな	鮓	人事
1166	明治30年	夏の部	此鮓をすしとなすべき由申せ	鮓	人事
1167	明治30年	夏の部	鮓空しく壓したる石の横はる	鮓	人事
1168	明治30年	夏の部	鮎の石重きに過ぎたらんを妹恐る	鮎	動物
1169	明治30年	夏の部	すしを壓す石を得つべく出行きぬ	鮓	人事
1170	明治30年	夏の部	思ひきやかばかり鮓のなれんとは	鮓	人事
1171	明治30年	夏の部	すし桶となすべきを得つさげ帰る	鮓	人事
1172	明治30年	夏の部	鮓を壓す石徒らに重きかな	鮓	人事
1173	明治30年	夏の部	妹瘦せて鮓石重き恨かな	鮓	人事
1174	明治30年	夏の部	すしはあらず何やら欲しう思ひける	鮓	人事
1175	明治30年	夏の部	忠義堂に鮓桶運び終りたる	鮓	人事
1176	明治30年	夏の部	鮓すこし残れるを夜さがし得つ	鮓	人事
1177	明治30年	夏の部	すしを得べく妻を厨下にはしらせつ	鮓	人事
1179	明治30年	夏の部	晋あけ易く兎四五疋楚に奔る	短夜	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1180	明治30年	夏の部	単穴に詩を題し五月雨を眠る	五月雨	天文
1181	明治30年	夏の部	尽く小き蚤を逸したる	蚤	動物
1182	明治30年	夏の部	暁に関を出でたる蚤を追ふ	蚤	動物
1183	明治30年	夏の部	周易に蠅糞をしつ溺をしつ	蠅	動物
1184	明治30年	夏の部	取敢へず硯に呑まんとすなる蠅	蠅	動物
1185	明治30年	夏の部	愚なる蚊の何を以て唾壺に出没す	蚊	動物
1186	明治30年	夏の部	西をさして暁の蚊の飛去りぬ	蚊	動物
1187	明治30年	夏の部	屋根の上の蝙蝠を射落さんず	蝙蝠	動物
1188	明治30年	夏の部	蝙蝠に弦を鳴らす徒爾なりき	蝙蝠	動物
1189	明治30年	夏の部	蝙蝠の忽然として見えずなり	蝙蝠	動物
1190	明治30年	夏の部	蝙蝠の今宵東隣より出でぬ	蝙蝠	動物
1191	明治30年	夏の部	疊三ひら敷ける廬を青あらし	青嵐	天文
1192	明治30年	夏の部	草長く水浅きところ螢多かり	螢	動物
1193	明治30年	夏の部	大なる螢たま / \ 西よりす	螢	動物
1194	明治30年	夏の部	行けど / \ 清水ありとしも見えず	清水	地理
1195	明治30年	夏の部	敗軍の清水かきにごし / \	清水	地理
1196	明治30年	夏の部	五月雨の村を犬吠え鶏鳴きぬ	五月雨	天文
1197	明治30年	夏の部	雨五月道蜀に入ること遠し	五月雨	天文
1198	明治30年	夏の部	行くが中に牛は最もさみだるゝ	五月雨	天文
1199	明治30年	夏の部	田舎路の茶屋さみだれて人もなし	五月雨	天文
1200	明治30年	夏の部	箋を展れば夕立の風吹いて来る	夕立	天文
1201	明治30年	夏の部	涼しさの枕水樓と申すあり	涼し	時候
1202	明治30年	夏の部	夕立を危樓と号すべき聳らぬ	夕立	天文
1203	明治30年	夏の部	夕立や毫を揮へば墨淋漓	夕立	天文
1204	明治30年	夏の部	甚だ可なり試みに昼寐せん	晝寝	人事
1205	明治30年	夏の部	瓜を切れば種が三ツ四ツこぼれける	瓜	植物
1206	明治30年	夏の部	一漢の蚊に苦める古廟かな	蚊	動物
1207	明治30年	夏の部	我を蹴て足長き蚊の飛でゆく	蚊	動物
1208	明治30年	夏の部	薄暗く晝の蚊多し閻魔堂	蚊	動物
1209	明治30年	夏の部	蚊帳の中の蚊を打果す夜明かな	蚊	動物
1210	明治30年	夏の部	撃たんとして撃ち得ざりける蚊を憎む	蚊	動物
1211	明治30年	夏の部	海門や孤帆見る / \ 雲の峯	雲の峰	天文
1212	明治30年	夏の部	北の方に真黒な雲の峯起る	雲の峰	天文
1213	明治30年	夏の部	銅標や鞅鞅の国の雲の峯	雲の峰	天文
1214	明治30年	夏の部	夏の月をざぶ / \ と水渉り来る	夏の月	天文
1215	明治30年	夏の部	魚店と八百屋の間を夏の月	夏の月	天文
1216	明治30年	夏の部	廣き家に大きな蚊帳のほしきかな	蚊帳	人事
1217	明治30年	夏の部	山寺や蚊帳を釣らざる夜をひとり	蚊帳	人事
1218	明治30年	夏の部	明らさまに蚊帳釣てある磯家かな	蚊帳	人事
1219	明治30年	夏の部	ひとり住んで蚊帳の破れをつくろひつ	蚊帳	人事
1220	明治30年	夏の部	岳陽樓に夕立すべきけしきかな	夕立	天文
1221	明治30年	夏の部	雲の峯総の野を壓し崩れんとす	雲の峰	天文
1222	明治30年	夏の部	扇裂いて悟了と叫ぶ男かな	扇	人事
1223	明治30年	夏の部	大女郎に凶扇を渡す小女郎哉	扇	人事
1224	明治30年	夏の部	赤裸々と炎天の小屋を出でゝゆく	炎天	天文
1225	明治30年	夏の部	扇の句一字を脱したる恨み	扇	人事
1226	明治30年	夏の部	團扇もちてからの女の歩み来る	扇	人事
1228	明治30年	夏の部	滝壺に膏薬洗ふ夏の旅	夏	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1229	明治30年	夏の部	女滝男滝四十八滝五月雨	五月雨	天文
1230	明治30年	夏の部	滝のそばに大きなひさごかけてあり	滝	地理
1231	明治30年	夏の部	犠牲や滝どう / \と夕立す	滝	地理
1232	明治30年	夏の部	滝をうしろ文覚出たり夏木立	夏木立	植物
1233	明治30年	夏の部	夏山の道窮まって滝あらはれぬ	夏山	地理
1234	明治30年	夏の部	庭前に滝をつくりいで一家すゞむ	納涼	人事
1235	明治30年	夏の部	閑古鳥をきくべくとして滝の後ろに出づ	閑古鳥	動物
1236	明治30年	夏の部	滝の上に入定したり苔の花	苔の花	植物
1237	明治30年	夏の部	木下閣滝あれば則ち祠あり	木下閣	植物
1239	明治30年	夏の部	若楓小さき橋の朱欄干	若楓	植物
1241	明治30年	夏の部	喬松林を出です昼寐をしたるべく	晝寝	人事
1243	明治30年	夏の部	萩若く庭さゝやかに雨細く	萩若葉	植物
1245	明治30年	夏の部	日は斜つゝじが逕幾曲り	躑躅	植物
1247	明治30年	夏の部	岩清水の止まって潭となり午の月	清水	地理
1249	明治30年	夏の部	籬を排し薫風南山より来る	薫風	天文
1251	明治30年	夏の部	對座して中夜に杜鵑をきかまくす	時鳥	動物
1252	明治30年	夏の部	家を移し葵の多き庭を得つ	葵	植物
1253	明治30年	夏の部	人俗にして帷子を着たる行く	帷子	人事
1254	明治30年	夏の部	旅に病むで癒えたればつゆ正に晴る	梅雨	天文
1256	明治30年	夏の部	通辯をして心太を命じ異人かな	心太	人事
1257	明治30年	夏の部	左遷の道黄州を経て心太	心太	人事
1258	明治30年	夏の部	心太の必ず冷かなるを望む	心太	人事
1259	明治30年	夏の部	取敢へず心太を命じたる主従かな	心太	人事
1260	明治30年	夏の部	野に飢えて偶々心太をさがし得つ	心太	人事
1261	明治30年	夏の部	客僧の東より來つ心太	心太	人事
1262	明治30年	夏の部	浮屠の道たとへば心太の如し	心太	人事
1263	明治30年	夏の部	小盗人の心太を喰ふてみたりける	心太	人事
1264	明治30年	夏の部	野社に心太賣る古き女	心太	人事
1265	明治30年	夏の部	心太一荷の價幾何ぞ	心太	人事
1266	明治30年	夏の部	只心太の冷かなるがあり	心太	人事
1267	明治30年	夏の部	卓上に心太の盤大なり	心太	人事
1268	明治30年	夏の部	中に心太を厭ふひとりあり	心太	人事
1269	明治30年	夏の部	招牌や水滸の店の心太	心太	人事
1270	明治30年	夏の部	真中に心太の盤を据えてあり	心太	人事
1271	明治30年	夏の部	心太に胃の腑損ひし恨かな	心太	人事
1272	明治30年	夏の部	家のうしろ灘声急にして明易き	短夜	時候
1273	明治30年	夏の部	短夜を灘上に泊す水の声	短夜	時候
1274	明治30年	夏の部	短夜や後宮の美女装ひを凝す	短夜	時候
1276	明治30年	夏の部	大早に雲霓を望む海の上	早	天文
1277	明治30年	夏の部	路傍の撫子折りつ / \行く	撫子	植物
1278	明治30年	夏の部	下閣を甲冑鮮かなる出でつ	木下閣	植物
1279	明治30年	夏の部	行者ひとり富士を下るに行逢ひつ	富士詣	人事
1280	明治30年	夏の部	はねる虫いさゝか蚤に似て非なり	蚤	動物
1282	明治30年	夏の部	夏瘦の汝を憐む人もなし	夏瘦	人事
1283	明治30年	夏の部	夏の月音楽起る鴻臚館	夏の月	天文
1284	明治30年	夏の部	水打て静かに對す木魚かな	打水	人事
1285	明治30年	夏の部	暑き日を同行凡そ四五十人	暑さ	時候
1286	明治30年	夏の部	道蠻に入り雨の日多き土用かな	土用	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1287	明治30年	夏の部	海の上を夕立の雲飛揚せり	夕立	天文
1289	明治30年	夏の部	夜道ゆけば山蛭落るあまたゝび	蛭	動物
1290	明治30年	夏の部	覇氣高く蛭が小島に夕立す	蛭	動物
1291	明治30年	夏の部	すさまじく山蛭の屍横はる	蛭	動物
1292	明治30年	夏の部	雲蒸すや泥中の蛭化けぬべく	蛭	動物
1293	明治30年	夏の部	踏迷ひ山蛭多き山に入る	蛭	動物
1294	明治30年	夏の部	瑞艸の根を湧き出づる清水かな	清水	地理
1295	明治30年	夏の部	悟了すらく鳴焼はこれ既成佛	鳴	動物
1296	明治30年	夏の部	土用干して一物を看破了	蟲干	人事
1297	明治30年	夏の部	蝸や食堂に下る法師原	蝸	動物
1298	明治30年	夏の部	癖奇なり一ツ葉の鉢并べたる	一ツ葉	植物
1299	明治30年	夏の部	坐に入て漫に汗拭を求めたり	汗拭	人事
1301	明治30年	夏の部	打磐やむで曉に蓮の白き咲く	蓮	植物
1302	明治30年	夏の部	僧房や蓮に飯喰ふ五六人	蓮	植物
1303	明治30年	夏の部	夜僧房に宿して曉に蓮を見る	蓮	植物
1304	明治30年	夏の部	繽紛と蓮花赫奕と菩薩夢	蓮	植物
1305	明治30年	夏の部	池に臨んで白蓮房と額したり	蓮	植物
1306	明治30年	夏の部	涼しさは漁戸断續のともしかな	涼し	時候
1308	明治30年	夏の部	納涼台に詩をつくるべく君帰る	納涼	人事
1310	明治30年	夏の部	大いなる芭蕉のかげに涼むべし	涼し	時候
1312	明治30年	夏の部	仰向くや昼寝の胸毛風が吹く	晝寝	人事
1314	明治30年	夏の部	納涼台を撤し恰も好きを見る	納涼	人事
1316	明治30年	夏の部	すこし飛べる蝉唾にして見えずなり	蝉	動物
1318	明治30年	夏の部	ところ／＼蚊にさゝれたるが腫れ痛む	蚊	動物
1320	明治30年	夏の部	夙に起きて若葉に對す頭痛かな	若葉	植物
1321	明治30年	夏の部	下闇に嘯いて行く我に病あり	木下闇	植物
1322	明治30年	夏の部	眼を病むであやめの汀に下り立ちぬ	あやめ	植物
1323	明治30年	夏の部	夏の雲赤黒くして人瘡を病む	夏の雲	天文
1324	明治30年	夏の部	夏瘦を君にはをかしがらせ給ふ	夏瘦	人事
1325	明治30年	夏の部	此夏を一の君いたう瘦せ給ふ	夏瘦	人事
1326	明治30年	夏の部	蚊帳のそとのくすしとおん物語かな	蚊帳	人事
1327	明治30年	夏の部	夏瘦や君をまほに得も見給はず	夏瘦	人事
1328	明治30年	夏の部	夏瘦せて十二宮樓の人恨む	夏瘦	人事
1329	明治30年	夏の部	後宮や人夏瘦せて君王を望む	夏瘦	人事
1330	明治30年	夏の部	曉装や人夏瘦もし給はず	夏瘦	人事
1331	明治30年	夏の部	夏瘦を貧にして機による物うしや	夏瘦	人事
1332	明治30年	夏の部	病みてあれば蚊遣火焚かんよしもなし	蚊遣	人事
1333	明治30年	夏の部	病みてより長へに捲かず青簾	青簾	人事
1334	明治30年	夏の部	病床や夢に妹がりに涼みける	納涼	人事
1335	明治30年	夏の部	癰を切て少し涼しき夕かな	涼し	時候
1336	明治30年	夏の部	縁に出でゝ癰をきれば大に夕立す	夕立	天文
1337	明治30年	夏の部	主蚊遣す従者薬を得て帰る	蚊遣	人事
1338	明治30年	夏の部	足の甲の膏薬剥がす清水かな	清水	地理
1339	明治30年	夏の部	虫干や隅に堆き傷寒論	蟲干	人事
1340	明治30年	夏の部	施薬院の門に昼寐の男かな	晝寝	人事
1341	明治30年	夏の部	少し病みて顔白き彌宜の御祓哉	御祓	人事
1342	明治30年	夏の部	蚊にも堪へず薬を蚊帳の中に煮る	蚊	動物
1343	明治30年	夏の部	夕立や雷落ちてより頭痛やむ	夕立	天文

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1344	明治30年	夏の部	清水汲んで主の創口を洗ひける	清水	地理
1345	明治30年	夏の部	夏六月南方瘴癘の地に陣す	六月	時候
1346	明治30年	夏の部	扁鵲が君に葛水を奉る	葛水	人事
1347	明治30年	夏の部	川狩に何ぞ疝氣を恐れんや	川狩	人事
1348	明治30年	夏の部	病僧の蓮の汀を徘徊す	蓮	植物
1349	明治30年	夏の部	赤き幣と鮓供へたり痘の神	鮓	人事
1350	明治30年	夏の部	道連の漢薬を説く夏野かな	夏野	地理
1351	明治30年	夏の部	妻もなき夏書の男病みほうけ	夏書	人事
1352	明治30年	夏の部	用ゐられず帰て病みつ麦の秋	麦の秋	時候
1353	明治30年	夏の部	背に疝を発して憤る蚊帳の中	蚊帳	人事
1354	明治30年	夏の部	病める人の早瓜ほしとぞ申越す	瓜	植物
1355	明治30年	夏の部	枕元の薬瓶に蠅たかりたる	蠅	動物
1356	明治30年	夏の部	路にして暑さに病むと郵便す	暑さ	時候
1357	明治30年	夏の部	病院の門に集へる日傘かな	日傘	人事
1358	明治30年	夏の部	病院の窓あけて見る若葉かな	若葉	植物
1359	明治30年	夏の部	臨月に衣更へたる女かな	更衣	人事
1360	明治30年	夏の部	夏痩せて異人の妻の医師を訪ふ	夏瘦	人事
1361	明治30年	夏の部	看護婦の白き衣や夏衣	夏衣	人事
1362	明治30年	夏の部	此夏を諸国大いに疫をやむ	夏	時候
1363	明治30年	夏の部	病臥して夢あしき夜半を子規	時鳥	動物
1364	明治30年	夏の部	蚊帳を出でつ国歩艱難にして吾病めり	蚊帳	人事
1365	明治30年	夏の部	あるじ病みて卯の花垣根しどろなり	卯の花	植物
1366	明治30年	夏の部	明けやすき夜を苦しげに咳嗽す	短夜	時候
1367	明治30年	夏の部	戀に病みて音をのみぞ泣く祭かな	祭	人事
1368	明治30年	夏の部	短夜を心中ありと呼はりぬ	短夜	時候
1369	明治30年	夏の部	後宮の人夏痩せて曉装す	夏瘦	人事
1370	明治30年	夏の部	四十雀の五十雀と呼ばるゝ恨かな	雑	雑
1371	明治30年	夏の部	目白去って頬赤来る日向かな	雑	雑
2262	明治31年	夏の部	藤の葉の窓にかぶさり夏に入る	夏	時候
2264	明治31年	夏の部	だぶ / \ と浴せかけた甘茶かな	甘茶	人事
2265	明治31年	夏の部	佛さまの産湯貰ひに参らうぞ	仏生会	人事
2266	明治31年	夏の部	子規夜舩に上る蜀の客	時鳥	動物
2268	明治31年	夏の部	水打て松籟起る四睡の囀	打水	人事
2269	明治31年	夏の部	妹がりを卯の花くだしたそがるゝ	卯の花腐し	天文
2270	明治31年	夏の部	水打てば泥亀の首ちぢめたる	打水	人事
2271	明治31年	夏の部	碁に倦むで餘花にあけたる小窓哉	餘花	植物
2273	明治31年	夏の部	老いし妓の衣更へたり単色	更衣	人事
2275	明治31年	夏の部	町中に地車を押す暑さか那	暑さ	時候
2276	明治31年	夏の部	薔薇園のせうび買ひたる異人哉	薔薇	植物
2278	明治31年	夏の部	百姓の筍を送る家例か那	筍	植物
2279	明治31年	夏の部	筍の分野争ふきほひか那	筍	植物
2280	明治31年	夏の部	藪小さく筍瘦せて伸びてけり	筍	植物
2281	明治31年	夏の部	筍の杉の木の間伸びてけり	筍	植物
2282	明治31年	夏の部	筍の皮棄てに出づ小川か那	筍	植物
2283	明治31年	夏の部	縁先に筍の土こぼれけり	筍	植物
2284	明治31年	夏の部	筍を掘りをれば竹の雫か那	筍	植物
2285	明治31年	夏の部	竹藪に筍盗む男か那	筍	植物
2286	明治31年	夏の部	七賢の筍飯に會したる	筍	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2287	明治31年	夏の部	筍を盗む竹原月夜か那	筍	植物
2288	明治31年	夏の部	筍に妙なる僧や一ト筆画	筍	植物
2289	明治31年	夏の部	去年買ひし筍賣の来りけり	筍	植物
2290	明治31年	夏の部	筍の伸びたきまゝに伸びにけり	筍	植物
2292	明治31年	夏の部	尼寺に少しばかり咲く紅の花	紅花	植物
2293	明治31年	夏の部	雨蛙宮の森より暮れかゝる	雨蛙	動物
2294	明治31年	夏の部	垣越に水打つ女ちよと見えし	打水	人事
2295	明治31年	夏の部	美少年の名ありかすりの單物	単衣	人事
2296	明治31年	夏の部	さしみ皿にいさゝかの蓼緑なり	蓼	植物
2297	明治31年	夏の部	けふの日の午の刻よりつりかな	梅雨	天文
2299	明治31年	夏の部	狼狽の子子沈むをかしけり	子子	動物
2300	明治31年	夏の部	目すゞしく眉秀でたるが夏書か那	夏書	人事
2301	明治31年	夏の部	道場の昼鎖したるあふちか那	棟の花	植物
2302	明治31年	夏の部	馬を下りて床几涼しさや磯馴松	涼し	時候
2303	明治31年	夏の部	涼風に画箋展べたる二階か那	涼風	天文
2304	明治31年	夏の部	短夜の雨戸あけたる二階か那	短夜	時候
2305	明治31年	夏の部	二階かりて画師がこもりぬ五月雨	五月雨	天文
2307	明治31年	夏の部	鱗形の雲うらゝかや湖の上	麗	時候
2308	明治31年	夏の部	日蝕の雲黄色なり秋の水	秋の水	地理
2309	明治31年	夏の部	油繪や秋日田家雲の色	秋の日	天文
2310	明治31年	夏の部	雨雲の蔽ひかさなる若葉哉	若葉	植物
2311	明治31年	夏の部	浴みして衣かへて山の雲を見る	更衣	人事
2312	明治31年	夏の部	太陽の雲割て出るあつさ哉	暑さ	時候
2313	明治31年	夏の部	巖上の雲の影落つ清水哉	清水	地理
2314	明治31年	夏の部	秋立つや峠の茶屋のあけの雲	立秋	時候
2315	明治31年	夏の部	師が活けし裁縫室のあやめ哉	あやめ	植物
2316	明治31年	夏の部	當直に女生徒あやめ持ち来る	あやめ	植物
2317	明治31年	夏の部	清水酌みに松脂臭き翁哉	清水	地理
2318	明治31年	夏の部	飯喰ふて納涼に出たる旅籠か那	納涼	人事
2319	明治31年	夏の部	炎天の砂利道きしる車か那	炎天	天文
2320	明治31年	夏の部	日盛の天井低き二階か那	日盛	天文
2321	明治31年	夏の部	嵩高にぼろ負ふてゆく暑か那	暑さ	時候
2322	明治31年	夏の部	麦酒盆に麦酒水菓子納涼台	雑	雑
2323	明治31年	夏の部	葉柳の窓打拂ふ雫かな	夏柳	植物
2324	明治31年	夏の部	涼風や紗の窓掛を吹きまくり	涼風	天文
2325	明治31年	夏の部	短夜を語明かしてしまひけり	短夜	時候
2326	明治31年	夏の部	涼しさの尺八吹いて橋を行く	涼し	時候
2327	明治31年	夏の部	川風の螢吹き入る裏二階	螢	動物
2328	明治31年	夏の部	葉柳に螢の籠を吊しけり	雑	雑
2329	明治31年	夏の部	鉦太鼓野に見世物の小屋あつし	暑さ	時候
2330	明治31年	夏の部	樂隊の森を出て来る夕涼し	涼し	時候
2331	明治31年	夏の部	川風の蠟燭を吹く涼しかり	涼し	時候
2332	明治31年	夏の部	壇上に蚊も寄りつかぬ咒文か那	蚊	動物
2333	明治31年	夏の部	虫干の古繪に夕日壇の浦	蟲干	人事
2334	明治31年	夏の部	短夜の陸地見えたる船路哉	短夜	時候
2335	明治31年	夏の部	葉柳の月に稽古やくさり鎌	夏柳	植物
2961	明治32年	夏の部	羽あり飛ぶ堂のうしろや日の落つる	羽蟻	動物
2962	明治32年	夏の部	水の上に羽蟻飛行く夜明かな	羽蟻	動物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2963	明治32年	夏の部	羽蟻とぶ葎の簾や縄朽ちし	羽蟻	動物
2964	明治32年	夏の部	松風に羽蟻吹かるゝ茶店かな	羽蟻	動物
2965	明治32年	夏の部	夥しき羽ありの庭や雨上り	羽蟻	動物
2966	明治32年	夏の部	樟の根に神ともならで羽蟻哉	羽蟻	動物
2967	明治32年	夏の部	日は赫と羽あり画棟に飛上る	羽蟻	動物
2968	明治32年	夏の部	竹縁に飛ばぬ羽蟻や經机	羽蟻	動物
2969	明治32年	夏の部	羽ありとんで紫の花にとまりけり	羽蟻	動物
2970	明治32年	夏の部	羽生へて飛出すありの思ひかな	羽蟻	動物
2971	明治32年	夏の部	羽ありとぶ檣の上や日の光り	羽蟻	動物
2972	明治32年	夏の部	水打てば羽蟻飛つく草の上	羽蟻	動物
2974	明治32年	夏の部	五畝の畑に藍も植ゑけり雨多き	藍蒔く	人事
2975	明治32年	夏の部	草取るや藍に撫子のこぼれ咲き	雑	雑
2976	明治32年	夏の部	藍瘦せて蓼丈高き畑かな	蓼	植物
2977	明治32年	夏の部	草の中に藍もまじりて草の中	藍	植物
2978	明治32年	夏の部	藍苗の畑まで鶏の遊びけり	藍蒔く	人事
2979	明治32年	夏の部	藍うゑて古きかめなど畑の隅	藍蒔く	人事
2980	明治32年	夏の部	山中や悉く藍をうゑし畑	藍蒔く	人事
2981	明治32年	夏の部	商人を泊めたる宿や藍畑	藍	植物
2982	明治32年	夏の部	照りつゞく藍の畑のほこりかな	藍	植物
2983	明治32年	夏の部	出水の藍の畑をひたしけり	藍	植物
2984	明治32年	夏の部	藍多く山路曇りし他國かな	藍	植物
2986	明治32年	夏の部	大木のしだれ櫻や実の多き	櫻の實	植物
2987	明治32年	夏の部	夢に見し実櫻となる故郷かな	櫻の實	植物
2988	明治32年	夏の部	試みにさくらの実かむちよと渋き	櫻の實	植物
2989	明治32年	夏の部	実ざくらを見上る庭や知らぬ鳥	櫻の實	植物
2990	明治32年	夏の部	庭のさくらに鳥の女夫や実をこぼす	櫻の實	植物
2991	明治32年	夏の部	中庭や池にさくらの実が熟す	櫻の實	植物
2992	明治32年	夏の部	柵結ひて実も結ばざる桜かな	櫻の實	植物
2993	明治32年	夏の部	実取る子のさくらに上る岐れ枝	櫻の實	植物
2994	明治32年	夏の部	桜子や鳥飛起つ宮まうで	櫻の實	植物
2995	明治32年	夏の部	桜の実自から落つる山路かな	櫻の實	植物
2997	明治32年	夏の部	兒吹くや若葉の山に人上る	若葉	植物
2998	明治32年	夏の部	山の井に若葉かぶさり祠かな	若葉	植物
2999	明治32年	夏の部	堂荒て鐘にさし出し若葉哉	若葉	植物
3000	明治32年	夏の部	舞殿や若葉の雫吹きつくる	若葉	植物
3001	明治32年	夏の部	石逕の故郷に近き若葉哉	若葉	植物
3002	明治32年	夏の部	学室の若葉月夜や若法師	若葉	植物
3003	明治32年	夏の部	若葉して間に人住む庵かな	若葉	植物
3004	明治32年	夏の部	若葉を出で岩鼻に立つ微風哉	若葉	植物
3005	明治32年	夏の部	知らぬ木や若葉の中に白き花	若葉	植物
3006	明治32年	夏の部	石逕を蛇の横ぎる若葉かな	若葉	植物
3008	明治32年	夏の部	かはせみの嘴をのがれし小魚かな	翡翠	動物
3009	明治32年	夏の部	かはせみの小魚落しぬ藤の棚	翡翠	動物
3010	明治32年	夏の部	かはせみや水緑なる朝月夜	翡翠	動物
3011	明治32年	夏の部	かはせみや汀飛び起つ草のゆれ	翡翠	動物
3012	明治32年	夏の部	翡翠や芦四五本に夜明けたる	翡翠	動物
3013	明治32年	夏の部	たま / \ や翡翠飛去る浅き水	翡翠	動物
3014	明治32年	夏の部	かはせみのとまる一本柳かな	翡翠	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3015	明治32年	夏の部	山陰やかはせみ去て暮るゝ池	翡翠	動物
3016	明治32年	夏の部	かはせみや魚ひそみたる柳の根	翡翠	動物
3017	明治32年	夏の部	小さき洲にかはせみ止り朝の雨	翡翠	動物
3018	明治32年	夏の部	かはせみのとまる巖や草すこし	翡翠	動物
3019	明治32年	夏の部	かはせみや水紋をなす淵の色	翡翠	動物
3020	明治32年	夏の部	かはせみの羽より雫したゝりし	翡翠	動物
3021	明治32年	夏の部	板塀や芭蕉玉巻く比叡の雲	芭蕉玉巻	植物
3022	明治32年	夏の部	門口や柿の花ちる油うり	柿の花	植物
3023	明治32年	夏の部	漣や岩を離れぬ羽ぬけ鴨	羽拔鳥	動物
3024	明治32年	夏の部	大比叡の雲に芭蕉の巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
3025	明治32年	夏の部	一八の屋根に鶯舞ふ日和哉	一八	植物
3026	明治32年	夏の部	神前や蓮の浮葉に灯のうつる	蓮の浮葉	植物
3027	明治32年	夏の部	戸明くるや蚊がとんで行く明の星	蚊	動物
3028	明治32年	夏の部	取出す袷わびしや酒の痕	袷	人事
3029	明治32年	夏の部	祭すぎて葵をはさむ歌集かな	葵	植物
3030	明治32年	夏の部	盤石や雫したゝる桐の花	桐の花	植物
3031	明治32年	夏の部	一門の神草かざす祭かな	祭	人事
3032	明治32年	夏の部	親よ子よ瓜や茄子の花盛り	雑	雑
3033	明治32年	夏の部	繪日今の京には清き流あり	日傘	人事
3035	明治32年	夏の部	穂麦わけて舞子の濱に出でしかな	麥	植物
3036	明治32年	夏の部	弟子僧のしばし交りぬ印地打	印地打	人事
3037	明治32年	夏の部	初なりの胡瓜うれしや朝の雨	瓜	植物
3038	明治32年	夏の部	枝蛙苔に落ちけり古き石	雨蛙	動物
3039	明治32年	夏の部	乗合や人の戀きく虎が雨	虎が雨	天文
3040	明治32年	夏の部	破産して穂麦の國を出づるかな	麥	植物
3041	明治32年	夏の部	牡丹亭に画箋を展べし唐子かな	牡丹	植物
3042	明治32年	夏の部	衣更へて舟に上りぬ暁の風	更衣	人事
3043	明治32年	夏の部	灌佛の甘茶冷めたし暮の雲	仏生会	人事
3044	明治32年	夏の部	石竹の露こぼれけり白き砂	石竹	植物
3045	明治32年	夏の部	摘み残す茶の木の雨や夏に入る	夏	時候
3047	明治32年	夏の部	鶯の虎溪に老いし別かな	鶯	動物
3048	明治32年	夏の部	大矢数馬乗りすてし小殿原	矢數	人事
3049	明治32年	夏の部	火串消えて草吹く風や暁近し	照射	人事
3050	明治32年	夏の部	拔出でゝ河骨咲くや金氣水	河骨	植物
3051	明治32年	夏の部	青梅や草の中なる古き幹	梅の實	植物
3052	明治32年	夏の部	鶉遣ひの物も云はざる愚かな	鶉飼	人事
3053	明治32年	夏の部	漣や松葉散落つ水の上	松落葉	植物
3054	明治32年	夏の部	葉柳や水ひた / \ と出町橋	夏柳	植物
3055	明治32年	夏の部	日のもるゝ松の落葉や南禅寺	松落葉	植物
3056	明治32年	夏の部	紫や水に雨ふる杜若	杜若	植物
3057	明治32年	夏の部	麦の穂や逢坂山に閑もなし	麥	植物
3058	明治32年	夏の部	鶯の老いしも知らず泣音かな	老鶯	動物
3059	明治32年	夏の部	草臥れし穂麦の路や寺に入る	麥	植物
3060	明治32年	夏の部	湖も見えて玉巻く芭蕉緑なり	芭蕉玉巻	植物
3061	明治32年	夏の部	てふ / \ の松をはなれて浜辺かな	蝶	動物
3062	明治32年	夏の部	須磨の家の背戸は名所や麦の風	麥	植物
3063	明治32年	夏の部	青嵐須磨をはなるゝ船屋形	青嵐	天文
3065	明治32年	夏の部	耕すやげんげ色濃き水たまり	げんげ	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3066	明治32年	夏の部	嵯峨村に旧蹟多し竹の秋	竹の秋	植物
3068	明治32年	夏の部	したゝりや雲の音きく石の上	滴り	地理
3070	明治32年	夏の部	したゝりの筏下るや大堰川	滴り	地理
3071	明治32年	夏の部	年々を鮎の子上る行方哉	鮎	動物
3072	明治32年	夏の部	蕩漾の若葉の上や鮎のぼる	雑	雑
3074	明治32年	夏の部	野々宮は竹落葉するばかりなり	竹落葉	植物
3076	明治32年	夏の部	さら / \ と屋根はしる竹の落葉かな	竹落葉	植物
3077	明治32年	夏の部	雪隠や昔の窓の柿若葉	柿若葉	植物
3079	明治32年	夏の部	草の中に墓さがし得つ羽蟻とぶ	羽蟻	動物
3081	明治32年	夏の部	撞鐘のほとりに松の落葉かな	松落葉	植物
3083	明治32年	夏の部	嵯峨の山に鐘聞えけり松葉散る	松落葉	植物
3085	明治32年	夏の部	かくや / \ 神輿かきゆく若葉かな	若葉	植物
3087	明治32年	夏の部	閑伽酌むで若葉見上る目はすずし	若葉	植物
3089	明治32年	夏の部	踏分くる野ばらの花や脛痒し	薔薇	植物
3091	明治32年	夏の部	古井に枝蛙落つ洒ぎかな	雨蛙	動物
3093	明治32年	夏の部	日にやけし馬士もまじるや御身拭	日焼	人事
3095	明治32年	夏の部	廣澤や真菰の上の昼の月	真菰	植物
3096	明治32年	夏の部	水湧くや物なつかしき苔の花	苔の花	植物
3097	明治32年	夏の部	蕁菜の花咲く池となりにけり	蕁菜	植物
3098	明治32年	夏の部	蕁とる舟の小唄や宵月夜	蕁菜	植物
3099	明治32年	夏の部	病葉の下にあやしき祠かな	病葉	植物
3100	明治32年	夏の部	椎咲くや油に黒む石灯籠	椎の花	植物
3101	明治32年	夏の部	谷川や石に魚見る百合の花	百合	植物
3102	明治32年	夏の部	宿おりの女訪ひよる粽かな	粽	人事
3103	明治32年	夏の部	宿下りの粽結ひけり五年ぶり	粽	人事
3104	明治32年	夏の部	さらし場に花咲く草の雫かな	晒布	人事
3105	明治32年	夏の部	日蝕の人群るゝなり麦の秋	麦の秋	時候
3106	明治32年	夏の部	生節に木葉かけたり舟がつく	生節	人事
3107	明治32年	夏の部	露切って旦の汁に投げけり	露	植物
3108	明治32年	夏の部	水のんで露の葉すつる山路哉	露	植物
3109	明治32年	夏の部	金銀の氣を吹く山の清水哉	清水	地理
3110	明治32年	夏の部	湖も見えて寺に玉巻く芭蕉哉	芭蕉玉巻	植物
3111	明治32年	夏の部	常盤木や落葉吹散る力餅	常盤木落葉	植物
3112	明治32年	夏の部	境内や銀杏若葉す神の水	若葉	植物
3113	明治32年	夏の部	御祭の鬢髪白き葵かな	葵	植物
3114	明治32年	夏の部	木の間より引き出でにけり競馬	競馬	人事
3115	明治32年	夏の部	葉柳の橋にせまりし神輿かな	夏柳	植物
3116	明治32年	夏の部	観音や若楓透く日の光り	若楓	植物
3117	明治32年	夏の部	尼が愛す萩の若葉や清閑寺	萩若葉	植物
3119	明治32年	夏の部	官人のよき帷子や椰子の下	帷子	人事
3120	明治32年	夏の部	帷子を浣ふあしたの流か那	帷子	人事
3121	明治32年	夏の部	帷子に草の香のぼる故郷か那	帷子	人事
3122	明治32年	夏の部	人の娘帷子を着て宿下り	帷子	人事
3124	明治32年	夏の部	草の上にはら / \ 雨や百合の花	百合	植物
3125	明治32年	夏の部	水湧くや草の葉末の雲の峯	雲の峰	天文
3126	明治32年	夏の部	麦藁の帽吹かれけり水の上	夏帽子	人事
3127	明治32年	夏の部	雲濕ふ保津の川瀬や夏木立	夏木立	植物
3128	明治32年	夏の部	打水にぬれし茶店の柱かな	打水	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3130	明治32年	夏の部	うゑまぜや紫陽花も咲く異種	紫陽花	植物
3131	明治32年	夏の部	山科の田植さびしや竹の風	田植	人事
3132	明治32年	夏の部	草衣を井木にかけし裸かな	裸	人事
3133	明治32年	夏の部	闇涼し草の根をゆく水の音	涼し	時候
3135	明治32年	夏の部	暁の杉に星見る蚊帳の中	蚊帳	人事
3137	明治32年	夏の部	藍うゑし畑に水引く微風かな	藍蒔く	人事
3139	明治32年	夏の部	麦刈て近江の湖の碧きかな	麦刈	人事
3141	明治32年	夏の部	木の間より湖の風吹く田植哉	田植	人事
3143	明治32年	夏の部	涼風の投網の水にぬれしかな	雑	雑
3145	明治32年	夏の部	太閤の千疊敷や茶摘歌	茶摘	人事
3147	明治32年	夏の部	山門や椎の花散る黄檗寺	椎の花	植物
3148	明治32年	夏の部	萬木の濕ふ山や五月雲	梅雨雲	天文
3150	明治32年	夏の部	涼しけや角なき鹿の草に臥す	涼し	時候
3151	明治32年	夏の部	大佛を見れば涼しき男哉	涼し	時候
3152	明治32年	夏の部	蘭を植ゑし愚庵に帰る雲涼し	涼し	時候
3153	明治32年	夏の部	狗ころと和尚と似たり夕すゞみ	納涼	人事
3154	明治32年	夏の部	水に散る神輿洗のかぶり哉	神輿洗い	人事
3155	明治32年	夏の部	飄々と神輿を洗ふ袖涼し	神輿洗い	人事
3156	明治32年	夏の部	水を吹いて鱈に到る風涼し	涼し	時候
3158	明治32年	夏の部	梅干にかしま立する翁かな	梅干す	人事
3159	明治32年	夏の部	木立出づる清き流や夏神樂	夏神樂	人事
3160	明治32年	夏の部	午近く土用の雲の起りけり	土用	時候
3161	明治32年	夏の部	散尽すねむの花見る病哉	合歓の花	植物
3162	明治32年	夏の部	塗盆の水したゝるや夏水	水水	人事
3163	明治32年	夏の部	空蟬や土をつかんで寂莫と	空蟬	動物
3164	明治32年	夏の部	月代や川狩の舟遡る	川狩	人事
3165	明治32年	夏の部	草の根に漣立つや水馬	水馬	動物
3166	明治32年	夏の部	雨乞の修験者谷に下りけり	雨乞	人事
3167	明治32年	夏の部	青鷺の東に飛ぶや暁の空	青鷺	動物
3169	明治32年	夏の部	水涼し顔をあぐれば東山	涼し	時候
3170	明治32年	夏の部	賣りに出る青蕃椒一荷かな	青唐辛子	植物
3171	明治32年	夏の部	芋の葉や角大豆の花あだにして	ささげ	植物
3172	明治32年	夏の部	朝起の小便したる青田かな	青田	地理
3173	明治32年	夏の部	岩の下を水流れけり青すゝき	青芒	植物
3174	明治32年	夏の部	鮎賣の水こぼしたる山路かな	鮎	動物
3175	明治32年	夏の部	醤油賣の吾に先だつ夏野哉	夏野	地理
3176	明治32年	夏の部	夏草に温泉の烟立つ軒端かな	夏草	植物
3177	明治32年	夏の部	草の上に帽子おきたる清水かな	清水	地理
3178	明治32年	夏の部	木の枝に脱ぎてかけたり夏羽織	夏羽織	人事
3179	明治32年	夏の部	墓の木に巣を張る蛛や苔の花	苔の花	植物
3180	明治32年	夏の部	雲帰る寺の昼寐の枕かな	晝寝	人事
3181	明治32年	夏の部	虫干の尼もあはれや寂光院	蟲干	人事
3182	明治32年	夏の部	夏艸に瀧のしぶきや白き花	夏草	植物
3183	明治32年	夏の部	瀧にすずみ山蟻に膾さゝれけり	納涼	人事
3829	明治33年	夏の部	青すたれ餘花に閑なる庭の雨	餘花	植物
3830	明治33年	夏の部	方丈は眼さめ玉はず蓮の寺	蓮	植物
3831	明治33年	夏の部	名所の草も螢も賣られけり	螢	動物
3832	明治33年	夏の部	晝顔の花小さくぞ咲出でし	晝顔	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3833	明治33年	夏の部	子子や花一つ咲く燕子花	子子	動物
3834	明治33年	夏の部	鶉籜も淋くなりぬ御還幸	鶉飼	人事
3835	明治33年	夏の部	虫干や山寺覗く小嘸囉	蟲干	人事
3836	明治33年	夏の部	雨乞や日は赫々と照り渡り	雨乞	人事
3837	明治33年	夏の部	晒井のよき水たまる旦那	井戸替え	人事
3838	明治33年	夏の部	火を焚くや烟もれ出る夏木立	夏木立	植物
3839	明治33年	夏の部	武者修業或は照射したりけり	照射	人事
3840	明治33年	夏の部	照射してひとりの母を養へり	照射	人事
3841	明治33年	夏の部	ともしして邪氣を受けたる病哉	照射	人事
3842	明治33年	夏の部	照射する男こわがり駕籠の中	照射	人事
3843	明治33年	夏の部	頭巾取って名告合たる照射哉	照射	人事
3844	明治33年	夏の部	ともしして戻る男や子を愛す	照射	人事
3845	明治33年	夏の部	草むらに大蛇を見たる火串哉	照射	人事
3846	明治33年	夏の部	火串して駆落者と見たりけり	照射	人事
3847	明治33年	夏の部	照射して犠牲をけんず山の神	照射	人事
3848	明治33年	夏の部	頭巾取れば美少年なりねらひ狩	照射	人事
3849	明治33年	夏の部	夢に見し木立の中の百合の花	百合	植物
3850	明治33年	夏の部	百合多き小嶋に神を祀りけり	百合	植物
3851	明治33年	夏の部	岩蔭に小さく咲きたり百合の花	百合	植物
3852	明治33年	夏の部	百合活けて簾に風を遮りぬ	百合	植物
3853	明治33年	夏の部	百合の花折り持ちて暮山を下る	百合	植物
3854	明治33年	夏の部	炭かまの跡の泉や百合の花	百合	植物
3855	明治33年	夏の部	青芒は馬に喰はれぬ百合の花	百合	植物
3856	明治33年	夏の部	山百合のはなべらを打つ小蛇かな	百合	植物
3857	明治33年	夏の部	夜遊ぶ女の神や百合の花	百合	植物
3858	明治33年	夏の部	谷川を越えて逕の百合の花	百合	植物
3859	明治33年	夏の部	佛法を誇って河豚と生れけん	河豚	動物
3860	明治33年	夏の部	佛像に対して奈良の春寒し	春寒	時候
3861	明治33年	夏の部	元日の佛にともす老となり	元日	時候
3862	明治33年	夏の部	灌佛や見上ぐれば皆若葉山	仏生会	人事
3863	明治33年	夏の部	雨のほとけそゞろに寒きおん姿	寒さ	時候
3864	明治33年	夏の部	川中の石の名所や青芒	青芒	植物
10515	明治33年	夏の部	名の知れぬ墓の乱れて苔の花	苔の花	植物
10521	明治33年	夏の部	扇置く亭の遊びや夜に入り	扇	人事
10563	明治33年	夏の部	哀への蛍あはれむ閏月	蛍	植物
10514	明治33年	夏の部	松杉聞く沼青々として閑古鳥	閑古鳥	動物
10547	明治33年	夏の部	野の草の折んとぞ思ふ花もなし	野の草	植物
10557	明治33年	夏の部	天風は後れて来る清水かな	清水	地理
10558	明治33年	夏の部	轉宅の物の花もなき土用かな	土用	時候
10559	明治33年	夏の部	清國の内亂をきく晝寐かな	晝寐	人事
10560	明治33年	夏の部	新宅に雨よるこぶ青田かな	青田	地理
10561	明治33年	夏の部	釣床や下を流るゝ水の石	釣床	人事
10564	明治33年	夏の部	糞舟の野川を下り雲の峰	雲の峰	天文
4021	明治34年	夏の部	青簾捲かんも物ぞ憂かりける	青簾	人事
4022	明治34年	夏の部	明易き旗へんほんどひるがへり	短夜	時候
4023	明治34年	夏の部	緑袍の人に逢ひけり毛虫の精	毛蟲	動物
4024	明治34年	夏の部	くたびれて皆寐入りたる清水かな	清水	地理
4025	明治34年	夏の部	風邪の氣の物ほしからず夏蜜柑	夏蜜柑	植物

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4026	明治34年	夏の部	白藤や昔女のうらみ塚	藤の花	植物
4027	明治34年	夏の部	一ツ新茶一袋去来より	新茶	人事
4028	明治34年	夏の部	染物の浅黄萌黄や花卯木	卯の花	植物
4029	明治34年	夏の部	葉櫻や射反らしたる白羽の矢	葉櫻	植物
4030	明治34年	夏の部	辨慶の髭もそりたる袷哉	袷	人事
4031	明治34年	夏の部	即景の茄子俗なり俳諧師	茄子	植物
4032	明治34年	夏の部	露の葉を披けば水の流哉	露	植物
4033	明治34年	夏の部	大澤の露のしげりや電光	雑	雑
4034	明治34年	夏の部	露の香のいやしからざる料理哉	露	植物
4035	明治34年	夏の部	鮓おして市の心に遠さかり	鮓	人事
4036	明治34年	夏の部	絵紙賣る大津の店や藤の花	藤の花	植物
4037	明治34年	夏の部	夕市の店の鱸や月上る	鱸	動物
4038	明治34年	夏の部	玫瑰の花咲いて海碧りなり	玫瑰	植物
4039	明治34年	夏の部	日の透くや柿の花ちる柿林	柿の花	植物
4040	明治34年	夏の部	少年の夏帽ぬぎし目すゞし	夏帽子	人事
4041	明治34年	夏の部	紫陽花に取乱したる妬かな	紫陽花	植物
4042	明治34年	夏の部	青天に秀でゝ桐の花咲きぬ	桐の花	植物
4043	明治34年	夏の部	冷やかな香齋舐りぬたかむしろ	簞	人事
4044	明治34年	夏の部	蚊を打て物狂はしき修法哉	蚊	動物
4045	明治34年	夏の部	虎を待てば風も起りぬほととぎす	時鳥	動物
4046	明治34年	夏の部	卯の花のうしと見る世や仮住み	卯の花	植物
4047	明治34年	夏の部	蝸牛の静かに物の花を見る	蝸牛	動物
4048	明治34年	夏の部	菩提とは清水の如き心かな	清水	地理
4049	明治34年	夏の部	一面に花咲く苔や雲の影	苔の花	植物
4051	明治34年	夏の部	物云へば共に愚かにして涼し	涼し	時候
4052	明治34年	夏の部	抱箆の夢凡ならず覚えけり	竹夫人	人事
4053	明治34年	夏の部	瓜茄子ころがり合へるえにし哉	雑	雑
4054	明治34年	夏の部	狂歌師の買ひむさぼりぬ初茄子	茄子	植物
4055	明治34年	夏の部	振袖の露を厭ひぬ釣忍	釣忍	人事
4056	明治34年	夏の部	夕立の小鮓や草にはね上る	夕立	天文
4057	明治34年	夏の部	元禄の古茶天明の新茶哉	雑	雑
4058	明治34年	夏の部	わびしさの鮓を探て味噌を得つ	鮓	人事
4059	明治34年	夏の部	山百合や故郷人の草を刈る	百合	植物
4060	明治34年	夏の部	草蟬の百合に取りつく小鳴哉	百合	植物
4061	明治34年	夏の部	さぶしくもあるか月夜の百合の花	百合	植物
4062	明治34年	夏の部	百合活けて座を起去りぬ五尺程	百合	植物
4063	明治34年	夏の部	たきものゝ一間や昼寐しておはす	晝寝	人事
4064	明治34年	夏の部	滝殿を下り来る人やたきものす	滝殿	人事
4065	明治34年	夏の部	殺生の閑白殿や時鳥	時鳥	動物
4066	明治34年	夏の部	つゝじ咲く傍に草木もなかりけり	躑躅	植物
4067	明治34年	夏の部	よき水に眼あかるき若葉哉	若葉	植物
4068	明治34年	夏の部	洪茶汲む娘梅干す媼哉	梅干す	人事
4069	明治34年	夏の部	目に青葉松魚は下司の新茶哉	雑	雑
4070	明治34年	夏の部	夏霞草の戸越の湖の上	夏霞	天文
4071	明治34年	夏の部	大徳の拂子や蠅も寄りつかず	蠅	動物
4072	明治34年	夏の部	夏草の茂きが中の軒端かな	夏草	植物
4073	明治34年	夏の部	新妻の鏡臺の上や紅扇	扇	人事
4074	明治34年	夏の部	薬湯のさめてしまひぬ夏の月	夏の月	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4075	明治34年	夏の部	金碧の額の古びや蓮の亭	蓮	植物
4076	明治34年	夏の部	蕪菜の花の盛を夕立かな	夕立	天文
4077	明治34年	夏の部	心中の沙汰も久しや橋納涼	納涼	人事
4078	明治34年	夏の部	川上の空に夜振のあかり哉	夜振	人事
4079	明治34年	夏の部	行き / \ て日傘かくれし野末かな	日傘	人事
4080	明治34年	夏の部	戀もなき草刈共や虎が雨	虎が雨	天文
4081	明治34年	夏の部	蓴採る姿を人に見られけり	蓴菜	植物
4082	明治34年	夏の部	澤庵に訪はれし宵や鮓をおす	鮓	人事
4083	明治34年	夏の部	流去る卵のからや風涼し	涼し	時候
10579	明治34年	夏の部	目の前にまぼろし消えてはちす哉	はちす	植物
10589	明治34年	夏の部	夏野行く馬の嚏や菓草	夏野	地理
4375	明治35年	夏の部	採蓴の姿恥らふうき思	蓴菜	植物
4376	明治35年	夏の部	編笠や故人も我も恙なき	編笠	人事
4377	明治35年	夏の部	澤潟の花さき出てぬ雲の峰	雲の峰	天文
4378	明治35年	夏の部	羅に水草の花を画きけり	羅	人事
4379	明治35年	夏の部	鮎釣の巖に寄りけり百合の花	百合	植物
4380	明治35年	夏の部	蝙蝠や小庭あかるき白菖蒲	菖蒲	植物
4381	明治35年	夏の部	水とく / \ 山葵の花の幽かなり	山葵の花	植物
4382	明治35年	夏の部	満山の植立杉や夏に入る	夏	時候
4383	明治35年	夏の部	鐘が鳴る諸山諸木の若葉かな	若葉	植物
4384	明治35年	夏の部	うらみわび果は筑摩のかさね鍋	筑摩祭	人事
4385	明治35年	夏の部	綿ぬいで貧しき戀を悲みぬ	更衣	人事
4386	明治35年	夏の部	さま / \ の戀ぢや浮世ぢや鍋祭	筑摩祭	人事
4387	明治35年	夏の部	綿ぬぐや重きが上の小夜衣	更衣	人事
4388	明治35年	夏の部	鮑叔に銭拂はせて初鯉魚	初鯉	動物
4389	明治35年	夏の部	淺ましき草の茂りや神泉苑	草茂る	植物
4390	明治35年	夏の部	鶯の老をも知らず四睡かな	老鶯	動物
4391	明治35年	夏の部	灌佛の鐘は上野か初鯉魚	初鯉	動物
4392	明治35年	夏の部	飯喰うて淋しかりけり花卯木	卯の花	植物
4393	明治35年	夏の部	花桐の露にぬれたる鶉かな	桐の花	植物
4394	明治35年	夏の部	油々と草茂るなり午の雲	草茂る	植物
4395	明治35年	夏の部	鶯の老いてせはしき鳴音かな	老鶯	動物
4396	明治35年	夏の部	二の申の祭の旗や青嵐	青嵐	天文
4397	明治35年	夏の部	神前の笙箏築やくらべ馬	競馬	人事
4398	明治35年	夏の部	なよ竹の女竹を植ゑつ細流	竹植る	人事
4399	明治35年	夏の部	菖蒲蓬いづれ六日の軒の露	菖蒲	植物
4400	明治35年	夏の部	一碗の茶を喫了す晝寐起	晝寝	人事
4401	明治35年	夏の部	到來の鮓の香うれし晝寐起	晝寝	人事
4402	明治35年	夏の部	朝日子をそびらに負ふて矢数哉	矢數	人事
4403	明治35年	夏の部	高山の頂に人や夏帽子	夏帽子	人事
4404	明治35年	夏の部	萍やたぐりよせたる花一つ	萍	植物
4405	明治35年	夏の部	掛香や草屋に育つ貴人の子	掛香	人事
4406	明治35年	夏の部	薬つめば薬を鹿のねぶりけり	薬日	人事
4407	明治35年	夏の部	たらちねのあやめ湯まゐるかたばかり	あやめ	植物
4408	明治35年	夏の部	鄙ぶりを人に恥ぢたる粽かな	粽	人事
4409	明治35年	夏の部	菖蒲酒はなやかに蓬酒わびたり	雑	雑
4410	明治35年	夏の部	燕子の寄りもつかざる幟かな	幟	人事
4411	明治35年	夏の部	鯨賣の山路を來る女かな	鯨	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4412	明治35年	夏の部	夕立や八尺の麻刈乱す	夕立	天文
4413	明治35年	夏の部	妹が取る小田の早苗の長短	早苗	植物
4414	明治35年	夏の部	ます鏡榭の花も咲きにけり	榭の花	植物
4415	明治35年	夏の部	鮎賣の水こぼし去る朝戸哉	鮎	動物
4416	明治35年	夏の部	宿の子の淺きなじみや苺やる	苺	植物
4417	明治35年	夏の部	瓜さがす野鍛冶が弟子や瓜の花	瓜の花	植物
4418	明治35年	夏の部	蚊帳を出て芭蕉つめたし眉の上	蚊帳	人事
4419	明治35年	夏の部	鑛を砕く響や雲の峯	雲の峰	天文
4420	明治35年	夏の部	競渡見る二喬や未だ幼き	ボート	人事
4421	明治35年	夏の部	紫陽花の蛇とる児や寺の間	紫陽花	植物
4422	明治35年	夏の部	香薷ねる水したたらず掌	香薷散	人事
4423	明治35年	夏の部	鹿の子の露涼しげにねぶりけり	鹿の子	動物
4424	明治35年	夏の部	夏川や喚べば答へて徒渉り	夏の川	地理
4425	明治35年	夏の部	編笠や人に知られし面魂	編笠	人事
4426	明治35年	夏の部	編笠や風吹來る伊豆の海	編笠	人事
4427	明治35年	夏の部	貯の煮酒の壺や詩を作る	煮酒	人事
4428	明治35年	夏の部	五更の灯煮酒の冷えを照しけり	煮酒	人事
4429	明治35年	夏の部	酒のまぬ杜氏や煮酒の火の加減	煮酒	人事
4430	明治35年	夏の部	封じ去る煮酒の桶や藏はやみ	煮酒	人事
4431	明治35年	夏の部	人のために酒煮るも憂し志	煮酒	人事
4433	明治35年	夏の部	大川の溢るゝ水や雲の峯	雲の峰	天文
4434	明治35年	夏の部	汎濫の水吹く風や雲の峯	雲の峰	天文
4435	明治35年	夏の部	くものみね洪水海と連りぬ	雲の峰	天文
4436	明治35年	夏の部	くものみね洪水國を貫けり	雲の峰	天文
4437	明治35年	夏の部	くものみね洪水森を洗去る	雲の峰	天文
4438	明治35年	夏の部	洪水や忽ち起るくもの峰	雲の峰	天文
4439	明治35年	夏の部	洪水をかぎる木立や雲の峰	雲の峰	天文
4440	明治35年	夏の部	眼前に水漲りぬ雲の峰	雲の峰	天文
4441	明治35年	夏の部	雲の峰くづれ洪水暮れんとす	雲の峰	天文
4442	明治35年	夏の部	くものみね水漲って音もなし	雲の峰	天文
4443	明治35年	夏の部	洪水に吾が立つ丘や雲の峯	雲の峰	天文
4444	明治35年	夏の部	洪水や葉山しげ山雲の峯	雲の峰	天文
4445	明治35年	夏の部	洪水の舟出恐ろし雲の峯	雲の峰	天文
4446	明治35年	夏の部	洪水の野にひた / \ と雲の峯	雲の峰	天文
4447	明治35年	夏の部	雲の峯出水の中の大榎	雲の峰	天文
4448	明治35年	夏の部	横サマに水押寄せぬ雲の峯	雲の峰	天文
4449	明治35年	夏の部	洪水や日たゞゆるがぬ雲の峯	雲の峰	天文
4450	明治35年	夏の部	洪水の老樹に激す雲の峯	雲の峰	天文
4451	明治35年	夏の部	洪水の渦去て雲の峯	雲の峰	天文
4452	明治35年	夏の部	雲の峰洪水の音遠きより	雲の峰	天文
4453	明治35年	夏の部	諸共に起きてふたさぬかやの穴	蚊帳	人事
4454	明治35年	夏の部	冷飯をこぼす夏書の御経かな	夏書	人事
4456	明治35年	夏の部	ひやめし喰終って冷飯腹横はる	雑	雑
4457	明治35年	夏の部	理屈云ふ兼好法師初松魚	初鰹	動物
4458	明治35年	夏の部	武者窓に雨吹きちるや桐の花	桐の花	植物
4459	明治35年	夏の部	鹿の子に馴れて遊びぬ女童	鹿の子	動物
4460	明治35年	夏の部	迷ひ行く鹿の子や神にみちびかれ	鹿の子	動物
4461	明治35年	夏の部	薬ふる夜明の水や白あやめ	あやめ	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4462	明治35年	夏の部	訪ひよれば思ふ女のまゆをえる	繭	人事
4463	明治35年	夏の部	よきまゆをえりわけにけり小一合	繭	人事
4464	明治35年	夏の部	日があたる水馬の夢や菱の花	菱の花	植物
4465	明治35年	夏の部	卵の花の水にこぼれて水馬哉	水馬	動物
4466	明治35年	夏の部	うすものや雨玉階にそゝぐ夕	羅	人事
4467	明治35年	夏の部	うすものや風を怕るゝ御悩み	羅	人事
4468	明治35年	夏の部	石榴の花の盛も久しかり	石榴の花	植物
4469	明治35年	夏の部	麦刈の寺を抜けけり花ざくろ	石榴の花	植物
4470	明治35年	夏の部	皮をぬく竹四五本の月夜哉	竹の皮脱ぐ	植物
4471	明治35年	夏の部	清流や竹の皮ちる竹の風	竹の皮脱ぐ	植物
4472	明治35年	夏の部	追剥に逢はで峠の明易き	短夜	時候
4473	明治35年	夏の部	夕立や熊坂の胸毛ぬるゝ程	夕立	天文
4474	明治35年	夏の部	涼しさや水進む大理石	涼し	時候
4475	明治35年	夏の部	湯あみして薄荷畑の風涼し	涼し	時候
4476	明治35年	夏の部	人の國は又も直訴や田植唄	田植	人事
4477	明治35年	夏の部	雨乞や又現はれし白き虹	雨乞	人事
4478	明治35年	夏の部	鍋さげて山田通ひや五月人	五月	時候
4479	明治35年	夏の部	くす玉の紫がちや右左	薬玉	人事
4480	明治35年	夏の部	人訪へば人の女房の昼ね哉	晝寝	人事
4481	明治35年	夏の部	一家皆昼寐のさまや明けはなし	晝寝	人事
4482	明治35年	夏の部	人の来て昼寐の母御目さめたり	晝寝	人事
4483	明治35年	夏の部	紫陽花に昼寐の臉開きけり	晝寝	人事
4484	明治35年	夏の部	山蟻を恐るゝ樹下の昼ね哉	晝寝	人事
4485	明治35年	夏の部	一人さめて蚊帳をつくらふ昼寐哉	晝寝	人事
4486	明治35年	夏の部	目さむれば虹が出て居る昼寐哉	晝寝	人事
4487	明治35年	夏の部	花活の花が開きぬ昼寐覚	晝寝	人事
4488	明治35年	夏の部	白薔薇を活けて和尚の昼寐哉	晝寝	人事
4489	明治35年	夏の部	鮒すしの消息もあり昼寐起	晝寝	人事
4490	明治35年	夏の部	前栽の日かげとなりぬ昼寐起	晝寝	人事
4491	明治35年	夏の部	庭樹打って人の昼寐を驚かす	晝寝	人事
4492	明治35年	夏の部	盗人の晝寐をしばる社かな	晝寝	人事
4493	明治35年	夏の部	雷や胡瓜畑の花ざかり	瓜の花	植物
4494	明治35年	夏の部	わぶらくは皆になりたる鮒の桶	鮒	人事
4495	明治35年	夏の部	蘭湯や一家兄弟十二人	蘭湯	人事
4496	明治35年	夏の部	子子のいやじゃ / \ と申しけり	子子	動物
4497	明治35年	夏の部	打水の盥の鯉がはねる哉	打水	人事
4498	明治35年	夏の部	卵の花に残る山吹きびしくも	卵の花	植物
4499	明治35年	夏の部	虫干の衣にかくるゝ童かな	蟲干	人事
4501	明治35年	夏の部	水飯に悲しき心起りけり	水飯	人事
4502	明治35年	夏の部	川上の朗詠美なる夜振かな	夜振	人事
4503	明治35年	夏の部	夏菊の黄もめづらしき朝餉哉	夏菊	植物
4504	明治35年	夏の部	蟻螂の世に顔よくも生れけり	蟻螂生る	動物
4505	明治35年	夏の部	屋根の上に土用の花やこぼれ草	土用	時候
4506	明治35年	夏の部	水草に流れ来て去る蟬の殻	空蟬	動物
4507	明治35年	夏の部	石山の石の上飛ぶ螢かな	螢	動物
4508	明治35年	夏の部	水に流す夏書の反古や朝あらし	夏書	人事
4509	明治35年	夏の部	百合切て滝に抛つ修法かな	百合	植物
4510	明治35年	夏の部	石に腰百合の写生や木下闇	百合	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4511	明治35年	夏の部	心よき浅黄のうらや更衣	更衣	人事
4512	明治35年	夏の部	氷むろ山櫻の頃の行幸哉	氷室	人事
4513	明治35年	夏の部	川床にしるき丈山の拂子哉	川床	人事
4514	明治35年	夏の部	夏瘦の手洗ひにゆく泉哉	夏瘦	人事
4515	明治35年	夏の部	佛拝む稚き君やくのえ香	薫衣香	人事
4516	明治35年	夏の部	掛香や領布ふりなから近よりぬ	掛香	人事
4518	明治35年	夏の部	夏羽をり長し短し人の丈け	夏羽織	人事
4519	明治35年	夏の部	詩箋飛んで水に入りけりたかむしろ	簞	人事
4520	明治35年	夏の部	一莖の蓮潔き夏書哉	夏書	人事
4521	明治35年	夏の部	境内の狸の番や栗の花	栗の花	植物
4522	明治35年	夏の部	梅干も日蔭となりぬ店の間	梅干す	人事
4523	明治35年	夏の部	明易き草の嵐や蛇の衣	蛇衣を脱ぐ	動物
4524	明治35年	夏の部	満願の暁出や風かほる	薫風	天文
4525	明治35年	夏の部	五月雨の背戸にすてけり魚のわた	五月雨	天文
4526	明治35年	夏の部	河骨や雲を出でたる日の光	河骨	植物
4527	明治35年	夏の部	百合高く鹿の子小さく画きけり	雑	雑
4528	明治35年	夏の部	銀の箸吹く風や沖膾	沖膾	人事
4529	明治35年	夏の部	乳母が宿の此頃の花や蜀葵	立葵	植物
4530	明治35年	夏の部	洗たくや盥にうつる雲の峰	雲の峰	天文
4531	明治35年	夏の部	心太つくがわざなる漢哉	心太	人事
4532	明治35年	夏の部	潔くすゝり了りぬ心太	心太	人事
4533	明治35年	夏の部	心太人各々が銭勘定	心太	人事
4534	明治35年	夏の部	心太ありやと如意を揮ひけり	心太	人事
4535	明治35年	夏の部	心太五言一句を口吟む	心太	人事
4536	明治35年	夏の部	昼兒の虹見る頃をしばみけり	晝顔	植物
4537	明治35年	夏の部	見てすぎぬ思ふ女のまゆをえる	繭	人事
4538	明治35年	夏の部	麻畑にあかき旭ざしや山かつら	麻	植物
4539	明治35年	夏の部	水馬名のなき虫も遊ぎけり	水馬	動物
4540	明治35年	夏の部	訃をきいて驚き起つやほとゝぎす	時鳥	動物
4541	明治35年	夏の部	うすものゝ兼好にくき男かな	羅	人事
4542	明治35年	夏の部	水飯に風や四面の蓮より	水飯	人事
4543	明治35年	夏の部	着かへたる白帷子やよだち過	帷子	人事
4544	明治35年	夏の部	蝙蝠や母子すまひの念佛鉦	蝙蝠	動物
4545	明治35年	夏の部	行水や虹消え残る東山	行水	人事
4546	明治35年	夏の部	夏川をわたり少らく跣足哉	夏の川	地理
4547	明治35年	夏の部	夏川のまた吹く風や顧みる	夏の川	地理
4548	明治35年	夏の部	夏川や草刈共の夕渉	夏の川	地理
4549	明治35年	夏の部	夏川や木立もる日のさぶら波	夏の川	地理
4550	明治35年	夏の部	夏川の已にあけたるうがひ哉	夏の川	地理
4551	明治35年	夏の部	夏川に下り立つ人や朝月夜	夏の川	地理
4552	明治35年	夏の部	夏川や夜ふけて渉る水の音	夏の川	地理
4553	明治35年	夏の部	夏川の月見る家や明放し	夏の川	地理
4554	明治35年	夏の部	夏川の月待つさまや捲すだれ	夏の川	地理
4555	明治35年	夏の部	編笠の人に訪はれし昼寐哉	編笠	人事
4556	明治35年	夏の部	編笠やいつもの髭を剃落し	編笠	人事
4557	明治35年	夏の部	編笠を脱いで心太に對しけり	心太	人事
4558	明治35年	夏の部	編笠に湖吹く風の真向哉	編笠	人事
4559	明治35年	夏の部	其中の女と見えつ小編笠	編笠	人事

明治26年～明治35年

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4560	明治35年	夏の部	編笠に故人瘦せたる涙かな	編笠	人事
4561	明治35年	夏の部	編笠をゆるがし笑ふ別哉	編笠	人事
4562	明治35年	夏の部	山寺の餘花紅に目さましき	餘花	植物
4563	明治35年	夏の部	一鳥啼かず餘花更に幽かなる	餘花	植物
4564	明治35年	夏の部	駒牽や鞍に青葉の日の光	青葉	植物
4565	明治35年	夏の部	駒曳や鬣を吹く青あらし	青嵐	天文